

非核の政府を 求める大阪の会

ニュース

第175号 2016年9月1日

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町7-3-4(新谷町第3ビル210号)
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・http://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@nifty.com

『ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える 核兵器廃絶国際署名』を推進しよう!!

核兵器のない世界実現を



原水爆禁止二〇一六年世界大会ー広島大会に参加。大阪の代表団会議が始まるまでの間、平和記念公園を訪ねましたが、そこでは、広島の高校生たちによる「核廃絶！ヒロシマ・中高校生による署名キャンペーン」として平和首長会議が掲げる「2020ビジョン」の中の核兵器禁止条約の交渉開始を求める市民署名活動を行っていました。私達も署名に応じるとともに彼女たちにも、ヒバクシャ国際署名への署名をお願いしました。

原水爆禁止二〇一六年世界大会国際会議宣言を国連作業部会に送付したことが報告されました。来賓あいさつでは、被爆者国際署名をすすめている被爆者七団体の内、四団体が横断幕を手に登壇、日本被団協代表委員の岩佐幹三氏が、「原爆は今もなお被害をもたらしている。決して誰にも負わせてはならない、この署名には被爆者の願いが込められています。ともに頑張らしましょう」と国際署名運動への参加を呼びかけ、また元国連軍縮問題担当上級代表のセルジオ・ドウアルテさんは、「核兵器廃絶への決意を持って戦い続けて欲しい」と参加者を激励されました。

五日は、非核の政府を求める会が行なう献花に参加、フォーラム



核兵器全面禁止のためにー政府とNGOの対話では、海外と日本の参加者が草の根の運動をめぐり交流しました。六日のヒロシマデー集会では、キム・ウォンス国連軍縮問題担当上級代表が、核軍縮の達成は責務であり、核兵器が再び使用されない唯一の絶対的な保障は、核兵器の全面廃絶であるとの藩基文国連事務総長から託された挨拶、また、ミゲル・ルイスカバニャス・イスキエルドメキシコ外務次官も私たちの世代は核兵器を廃絶する責任があると話しました。高石市の阪口伸六市長も参加、挨拶されました。ヒロシ

マデー集会の特別企画として、家族六人の命を一時にして奪われた松本秀子さんの被爆体験、被爆二世で、佐々木禎子さんの甥のアーティスト佐々木祐滋さんと被爆三世のメティスさんが平和の祈り、命の大切さを曲に託します」と訴え、「INORI」の新バージョンを披露し、参加者と思いを共有、次代へつなぐ決意を大きな拍手で示しました。

草の根からの圧倒的世論で核兵器をなくそうと「広島からのよびかけ」を満場の拍手で採択、ヒバクシャ国際署名に大きく取り組み被爆国の役割を果たそうと決意を固めました。

五日は、非核の政府を求める会が行なう献花に参加、フォーラム

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争阻止、核兵器廃絶の実現を求める
 - ② 国是とされる非核三原則を厳守する
 - ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を防止する
 - ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
 - ⑤ 原水爆禁止世界大会の、これまで以上の台意にもとづいて国際連帯を強化する。

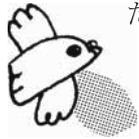
被爆七一年目、 しっかりと 若い世代に 語り継ぎ……

田辺模擬原爆 投下追悼式

七・二六田辺模擬原爆追悼実行委員会主催で、あいにくの雨の中、今年一五回目の田辺模擬原爆追悼式が行われました。昨年当会が開催した『原爆投下直前のパンプキン爆弾投下』の真相に迫るつどい』に参加いただき、



体験をお話いただいた龍野繁子さんをはじめ、広島、長崎の被爆者などが挨拶、今年初めて参加した田辺小学校の児童代表や我孫子中学校、昭和中学校、長吉西中学校、泉佐野の佐野中学校など大阪府下の小中学生なども多数参加し、龍野さんは、挨拶の中で「考えをしつかり言える大人になつて」と生徒たちに呼びかけ、生徒たちも「しつかり学び、向き合つていく」と心えるなど、平和と核兵器のない世界の実現を願って手を合わせました。



今年も二〇人以上が参加。平和が脅かされつつある今日、次世代へ語り継いでいくことの大切さを痛感した慰霊式でした。



原水爆禁止国民平和 大行進に参加して

通し行進

メンバー府内
レポート
事務局 牛山一雄

核兵器廃絶を訴えながら、原水爆禁止世界大会成功へ向けて全国各地から広島・長崎へ歩き続ける国民平和大行進「東京―広島コース」の行進団が六月三〇日に大阪入りしました。

三二カ所を巡りましたが、一部の例外(松原市)を除き、大阪府知事はじめ、すべての市町村長、議会議長から、激励のメッセージが寄せられました。

行く先々では、快く私たちを出迎え、中には市長自らが、お茶を振る舞い、激励の挨拶をし、行進団の先頭に加わり並んで行進する姿も少なからずありました。

地元住民との間で、様々な軋轢、問題をかかえている地方行政のトップであっても、唯一の戦争被爆国の国民として核兵器廃絶への思いは私たちの運動と同じ土台上に存在していることを感じ取りました。

この関係を大切に、核兵器廃絶へ新たな展開へ向かっている世界の大きなうねりにプレキをかけているわが国政府の姿勢を転換させる力となるよう、市民、行政と共同した運動を拡大していきたいものです。



非核・平和のデータブック III

行進で訪れた府下すべての自治体には、我が国が引き起した侵略戦争の傷痕、記録が存在しています。府内行進の中継地、大阪城公園には、大阪砲兵工廠跡や鶴彬碑があります。行進最終日の出発地、豊中市は原爆詩人「峠三吉」生誕の地でしたが、出発地、中継、終着地いずれでも、これらが殆ど語られなかつたのが残念でした。平和行進は、誰でも一歩でも二歩でも歩くことで反核平和運動に加わる草の根の行動ですが、歩きながら戦争の傷跡に触れ、学ぶことも意義深いことです。この機会にあなたの街の戦争の傷跡を調べてみたいかがでしょうか。(府下全自治体の戦争に関する記録は当会発行のデータブックI、IIに満載。お求めは事務局まで)

たのが残念でした。平和行進は、誰でも一歩でも二歩でも歩くことで反核平和運動に加わる草の根の行動ですが、歩きながら戦争の傷跡に触れ、学ぶことも意義深いことです。この機会にあなたの街の戦争の傷跡を調べてみたいかがでしょうか。(府下全自治体の戦争に関する記録は当会発行のデータブックI、IIに満載。お求めは事務局まで)

新しいHP 移行は済ませました

新しいホームページアドレスは <http://hikaku-osaka.jp/> です。

新 常任世話人

を紹介しませう

この四月から常任世話人となりました。

自治労連では、第二次世界大戦の反省から二度と戦争に加担しない、赤紙は配らないの決意のもと、憲法をくらしにいかす運動を取り組んでいます。

先日の参院選で、改憲勢力が三分の二を占める結果となり、安倍政権は『戦争する国づくり』をさらに押し進めようとする危険な内閣を発足させましたが、一人区で野党統一候補が、一一議席を獲得。沖縄では衆参ともに与党議員がゼロに。鹿児島県知事選でも、反原発の知事が誕生するなど、市民と野党共闘のたたかいは着実に前進しており、決して憲法改正を認めたくわけはありません。

私自身も、三六年前に大阪府に入庁し、青年部の役員になったこ



非核の政府を求める会献花 8月5日早朝

とをきっかけに、ピキニデーや沖縄での国際平和会議、反核ライダ―で広島、長崎の原水禁大会参加や、知事に非核大阪宣言や大阪港の非核神戸方式など要求するなど、平和運動に携わり、広島・長崎の原爆資料館に行くたびに、非人道的な核兵器の即時廃絶、悲惨な戦争は二度と繰り返してはならないと、心に刻んできました。

(小山 光治)

ツアーでは学生同士で学び・議論し、「私たちに何が出来るか?」と真剣に考えるメンバーの姿に本当に刺激を受けました。なにより世界大会で非核・平和を

今年三月から民青の専従としても新たなスタートを切りました。今後とも宜しくお願い致します。私の非核・平和運動への関わりは、大学二年生の時に府下の学生で原水爆禁止世界大会に参加する「大阪学生ピースツアー」に参加したことがきっかけです。

民 青同盟 府委 の大勝地平 (おおかつちへい) でした、



求める エネルギ―を感じ、みんなで行動するといいこと

あなたの国際署名が
核兵器のない世界をつくれます

被爆者は、すばやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます

非核の政府を求める大阪の会

2016年 意見広告ポスターにご賛同下さい

世界では核兵器の非人道性を告発し、廃絶を求める世論が高まっていますが、日本政府は、国連での核兵器禁止条約交渉を求める諸決議にさえ背を向け、被爆国の責任を果たしていません。被爆71年目の今年、被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名運動がスタートしました。被爆者の思いにこたえて2020年に向けて世界で5億の署名を集め、核兵器のない世界を実現するための草の根の行動と国民的共同を大きくする世論喚起はますます重要となってきています。当会もこの思いに呼応して署名運動を推進し成功させるための一助にしたいと思います。

【応募方法と賛同金、締め切り日時】

※応募は事務局までFAX（または申込用紙：HPからダウンロード）

団体：一口3,000円 個人：一口1,000円

※締め切り：9月末日

ピースイン おおさか

国内外での草の根の核兵器廃絶運動の交流すむ

被爆五〇年の年に始まった「海外代表と語るうピースインおおさか」は、今年で二二回目を迎えます。当初は実行委員会方式で当会も実行委員会に入り、当会代表世話人であった故東谷敏雄氏が実行委員長をされていたものです。現在は大阪原水協主催となり、八月



二日から始まる原水爆禁止世界大会国際会議の直前の八月一日に大阪市内で開催されました。今年度は、おなじみのアメリカ合衆国のアメリカ・フレンズ奉仕委員会のジエゼフ・ガソン氏、ピース・アクションのヘイリ・コプリー・カニングさん、オランダから平和運動パックスのセマル・ヴァン・オーストワードさんの三人の海外代表をお招きしました。とくに、若者として平和運動に参加している



二人の女性からの発言に参加者一同、元気をもらいました。現在二〇歳の学生であるカニングさんは、学内で軍事費を削って教育に回せ等のピース・アクションの運動を行っており、オバマ大統領の核兵器のない世界を、との演説がアメリカ外交には反映されていらない状況を切り替えさせたいと話しをされて、はじめての広島訪問に期待しています、とのこと。



オランダから来阪されたオーストワードさんは、ドイツのNATO空軍基地の二四時間使用を阻止する運動などをおこなっています。オランダ政府も「核の傘」に入っているなかで核兵器製造にかかわる企業を明らかにし、告発する運動も行っている、とのこと。討論のなかで、日本企業も六社リストアップされていることが明らかになっています。

広島 平和

記念資料館



核兵器廃絶運動の原点ともいえるべき被爆地・広島「原爆資料館」は、是非一度は見学してほしい平和博物館です。現在は「東館」が改築中で閉鎖されており、正館のみの展示となっております。この八月末までの期間限定で六月広島を訪問したオバマ大統領のメッセージと折り鶴の展示がされていました。原

参加者から積極的な発言が相次いで、最後には大阪からのプレゼントを海外代表に手渡して閉会となりました。***
平和博物館を訪ねて
水爆禁止世界大会中の合間をぬって見学してきた報告をします。見学者は例年以上に海外からの見学者が多く、しっかりと見学しています。展示は「八月六日」の日を再現したパノラマ、被害の実相を「熱線による被害」「爆風による被害」「放射線による被害」「高熱火災による被害」、そして「救援救護活動」となっており、最後に「市民が描いた原爆の絵」「被爆者は語る」最後に「平和へのメッセージ」「となっています。
この最後のコーナーにオバマ大統領からのメッセージと折り鶴がガラスケースの中におさまっています。八月末までしか展示していません。このニューズをお届けした日には目に見ることができないかと思えます。オバマ大統領の広島訪問、その演説内容には議論があるところかと思えますが、広島市長や被爆者が訪問を呼びかけていたこと、原爆投下国の現職大統領がそれに答えて訪問した事実として貴重な記録として当会ニューズに掲載します。